



ラスボスの思想(56)



人間の証明

春日信彦



目次

人間の証明

森村誠一のベストセラー、「人間の証明」は、棟居（むねすえ）刑事が”黒人青年 ジョニー殺人事件”を解決する物語です。この殺人事件は、複雑なのですが、事件解決の手掛かりになったのは、殺害された黒人青年が持っていた西條八十詩集です。この詩集にある一遍「ぼくの帽子」に書かれていた”碓井から霧積にゆくみち”の「霧積」が決定的な糸口になったのです。

ぼくの帽子

西條 八十（さいじょうやそ）

母さん、僕あの帽子どうしたでしょうね？
ええ、夏、碓氷（うすい）から霧積（きりづみ）へゆくみちで、
谿底（たにそこ）へ落したあの麦稈（むぎわら）帽子ですよ。

母さん、あれは好きな帽子でしたよ、
僕はその時、ずいぶんくやしかった、
だけど、いきなり風が吹いてきたもんだから。

母さん、あのとき、向から若い葉売が来ましたっけね。
紺の脚絆（きゃはん）に手甲（てっこう）をした。
そして拾おうとして、ずいぶん骨折ってくれましたっけね。
けれど、とうとう駄目だった、
なにしろ深い谿（たに）で、それに草が
背たけぐらい伸びていたんですもの。

母さん、ほんとにあの帽子、どうなったでしょう？
あのとき傍（かたわら）に咲いていた、車百合（くるまゆり）の花は
もうとうに、枯れちゃったでしょうね。そして
秋には、灰色の霧がああ丘をこめ、
あの帽子の下で、毎晩きりぎりすが啼（な）いたかも知れませんよ。

母さん、そして、きっと今頃は、今夜あたりは、
あの谿間に、静かに雪が降りつもっているでしょう、
昔、つやつやひかった、あの以太利（イタリー）麦の帽子と、
その裏に僕が書いた
Y・Sという頭文字を
埋めるように、静かに、寂しく。

事件の結末は、意外なことに、黒人青年ジョニー殺害の犯人は、実の母親だったので。さらに、彼女は、親子関係を知っていた老婆までも殺害したのです。なぜ、黒人青年が、日本人女性の子供だったのか？ また、なぜ、彼女は、実の子供を殺害してしまったのか？ 棟居刑事は、彼女に自白を迫り、彼女の戦後から隠し続けていた悲しみと強欲を白昼にさらけ出したのです。

実は、この事件には、多くのテーマが含まれてるのです。国家、敗戦、米軍、恋愛、婚姻、親子、黒人、貧困、麻薬、差別、名誉、子育て、など、作者は、現代の様々な問題を取り上げていたのです。

さらに、罪は、人が裁くことができなくとも、必ず、神によって裁かれることも暗示しました。

一休川柳

令和では 日本の首都は トンキンか

原住民 家畜米で 生きのびる

今回も 都民踊りで 幕閉じる

あら不思議 誰の操作で 当選か

参院選 田舎もガンバ 参政党

開票日 自筆の票が 豹変ス

戦時下を 知らぬ若者 自決する

参院選 参政党の 口封じ

参院選 すでに預言者 言い当てる

ラスボスの思想(56)

著 者 春日信彦

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
